

校長だより

主体的、対話的で深い学びを求めて…授業改善に向けた取組

■神戸市教育委員会より、吉岡指導主事に来校していただきました。

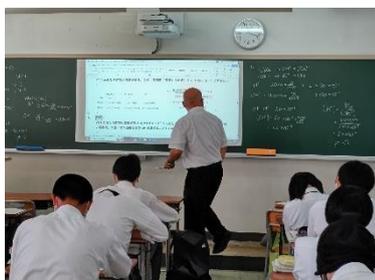
○6月22日(水)に神戸市教育委員会より、吉岡拓也指導主事をお招きし、本校の授業見学をしていただきました。

○来る8月23日(火)PMに吉岡氏を講師としてお招きし、職員研修会を予定しています。研修会では、神戸市内の小・中学校などでのICTを活用した授業実践例を紹介していただき、本校での授業改善のアイデアを得たいと考えています。

○今回、本校の授業を見ていただく中で気づいた点などを、8月の職員研修会で、より具体的にアドバイスいただく予定です。



吉岡指導主事に授業を見学していただきました。



短焦点プロジェクターを活用した化学の授業。



個々の生徒がタブレットを活用した英語の授業。



教室に備え付けの大型ディスプレイを活用した生物の授業

■吉岡指導主事のお話から

○小学校の先生からは、「ICTの効果的な使い方は？」という質問をよく受けます。中学校の先生方からは、「その活動に意味はあるのか？」という質問をしばしば受けます。高校の先生方からは、「BYODも始まり、どのように活用させたらいいのか？」といった質問が寄せられる一方、「私はICT機器を活用しません」という意見を述べられる方もおられます。

○自立して学ぶ生徒の育成を大切にしていきたいと思えます。ICTを授業で活用することが目的ではありません。生徒自身がタブレット等の機器を使う方が効果的か、紙のノートを活用する方がよいかを判断し、選択し、学習に向かうことが大切だと思います。

○教員も生徒もタブレットの活用に慣れる第一歩として推奨しているのが、タブレットで自筆のノートなど撮影し、Teamsなどを使って提出させることです。また授業の最後には、「授業での大切なポイント」、「わからなかったこと」などをFormsで提出させることも薦めています。時にこれらのデータを生徒全体に提示し、それに対しての意見を出させます。これによって教員-生徒、生徒-生徒間のコミュニケーションがとても円滑になります。

★自立して学ぶ生徒を育てるために、今後も授業改善にチャレンジしていきたいと思えます。